

# 牧草と園藝







て名高いところである。というのはこの地方が酸性土壌地の多い日本ではまれに見る石灰岩地帯なのである。それだけにこの地方にはクロバー栽培が好適しているのであつて、この地方にとつてクロバー栽培は真に適地適作といへよう。

しかもそればかりではない、即ち、これ迄あらゆる作物の中でいちばん冷害に耐えると考えられ、それだけにこの地方の農家の経営安定上なくてはならない作物とされてきたヒエにくらべて、クロバーは遙かに冷害に強いことがわかつて来た、つまりこの点でもクロバーはこの地方に好適した作物なのである。

こうしてこの地方にごく最近になつて新しくクロバー栽培が急速に普及して、そこに基盤をおいた真の意味での酪農といえる経営形態が、このごろこの地方によく確固たる地位を確こうとして、はじめてこの地方の農家経営も漸く安定の緒につくこととはじめたのである。

### クロバー栽培の実態

では、この地方のクロバー栽培の実態は、はたしてどんなものなのか。

秋播きする場合は、遅くも九月中旬までに春播きのものでは五月中旬頃に播種する秋播きの場合はクロバーを単作するのが普通だが、春播きのものではエンバクと混播し、発育が遅く単作すると第一回の刈取りを見送らなければならないクロバーのもつ不利を生長のよいエンバクを刈取ることで補えるのである。そしてその後、これと

いつた肥培管理はせずに、強いていえばクロバーを刈取つた都度、牛の尿を撒布する程度のことしかしてはいない。

しかもそれでいて初年度で、一、八〇〇〜二、〇〇〇貫程度、次年度以降は一、五〇〇〜二、八〇〇貫位ものを収穫しているのが普通である。ということは、成分計算で換算してみると、反当大体フスマ三四〇貫のものもつ蛋白質が得られるということである。そしてそれをまた別のいい方では、反当収入がほぼ三四、〇〇〇になるということでもある。だからヒエ、ムギ、ダイズの二年三作による本来の営農方法による収入が、反当二〇、〇〇〇円にもなれば、御の字であるにくらべて、いちじるしい収入の増加といわなければならず、それがまたいと楽な仕事の結果だという点に格別大きな意義がある。

### 前進する酪農

その上、そういう利益以外に、クロバー栽培がこの地方の農民に、もたらした以上の利益は、次の二つの点にあつたものと私は思う。

その第一は……たとえはこの地方の農民にとつてヒエ作りが最大の負担に思えていふということとは、ヒエの除草に大変な労力がかかるといふことである——ヒエ作りは最低反当四〇人手間といわれている——。ところがクロバーを栽培することで、農民はこの除草の大変な苦役から解放されるのである。それがこの地方の農民にとつて、いかに大きな喜びであるかは、ヒエの除草

のつらさを体験したことのない人達には容易に理解し得ないことなのであろう。

そして第二には……こうしてクロバーを栽培し、それを飼料に使い、本格的な酪農経営を営むようになって、この地方の農民もはじめてこれまでの原始的な、自給自足の経営経済をぬけて、商品生産的経営を営むことができるようになるのだということ。つまりそこにはじめて経営の、そして

### 牧草と園芸 十一月号 目次

◆表紙写真……牧草の刈取(チモシー、赤クロバー、ルーサン、ブROOMグラスの混播、二年目)

◇岩手県の高冷地帯を救つたクロバー栽培……松丸志摩三……二

◇酪農十年の歩み……郷 正 光……四

◇養豚における草の利用……J・H・ゼラー……六

◇我国の酪農情勢……沢 潤 一……八

◇新しく果樹を植えた人たちのために……佐藤 敬 雄……三

◇りんごの早生種並びに核果類に対する

2・4・5・T・Pの影響……沢 田 英 吉……四

◇北海早生と千両梨の由来について……星野勇三博士談……五

◇ハウレン草の栽培試験成績……武 川 政 江……六

◆農芸談話室……

なかつたと見えて予期以上の普及をみた。  
注 クロバーを主体とした酪農の欠点は、夏の青草期に澱粉価が不足し、乳牛の栄養価が低下して行くことである。そこで私はそれを防止するために馬鈴薯栽培をすすめ、それを原料に使い、晩秋にサイロを使ってイモヌカ飼料を作製することを計画したのである。  
こうして岩手県のチベット地帯にすら、

が、栽培作物を単純化することもできて、はじめて農業技術の発展も期待できる。  
つまりそういう理由から、私は僅か一年一町村で酪農指導に挺身し、クロバー栽培を中心にして、それに馬鈴薯、デントコーン、ライ麦、並にカブの栽培をとり入れた新しい輪作様式をうちたて、その上に確固たる酪農を確立しようと努力した訳である。  
私の考えたこの新しい輪作様式は、間違が

クロバー栽培という、新しい適地適作主義を浸透させることで、将来そこに明るい酪農地帯を建設し得る見込みが十分にあるのだ、ということだけは知っていただけだ、と思うが、実は私はそれが将来に対するいゆる架空の期待ではなしに、すでに着々と歩をすすめてつある現実の期待なのだということを、くれぐれも強調したく思うものである。

(千葉県長生郡本納村)